

■雇用統計は強弱入り混じる結果に

先週末10日に発表された2月の米雇用統計では、非農業部門雇用者数が前月比31.1万人増と、市場予想の22.5万人を上回りました。一方、失業率は3.6%と市場予想の3.4%を上回り、またインフレ動向を占う上で重要な平均時給は前年同月比+4.6%と依然として高水準ではあるものの、市場予想の+4.7%を下回るなど、全体としては強弱入り混じる結果となりました(図表①)。

■金融システム不安から米利上げ見通しが変化

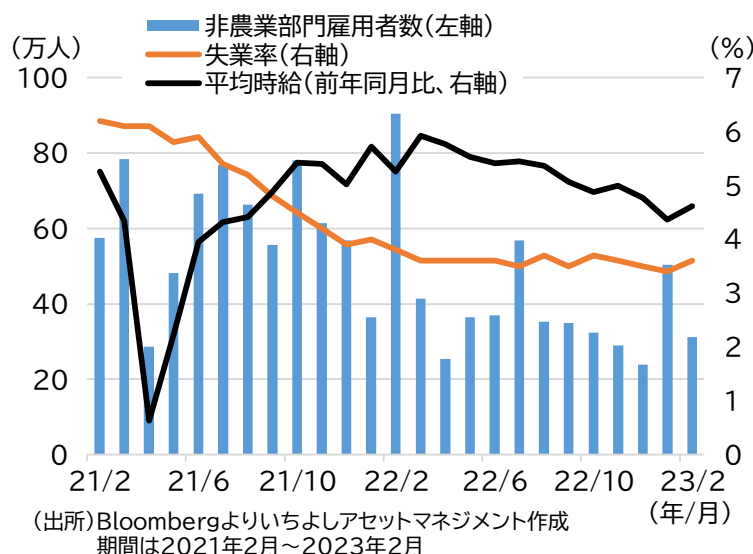
今回発表された雇用統計は強弱入り混じる結果となりましたが、10日に米シリコンバレー銀行(SVB)の経営破綻報道が伝わったことでリスクオフによる株安・金利低下が進みました。FRB(米連邦準備制度理事会)のパウエル議長は7日の議会証言でデータ次第で利上げ幅再拡大、利上げ長期化の可能性を示唆していましたが、こうした動きを受け、金利先物市場では利上げ見通しが大きく後退することとなりました(図表②)。

なお、12日にはニューヨーク州を地盤とする米シグネチャー銀行も経営破綻したと伝わり、足元では米金融システムへの不安が高まっています。当面は破綻の連鎖が一過性で終わるのか、動向を注視する必要があると思います。①米財務省、FRB、FDIC(米連邦預金保険公社)による破綻した2行の預金の全額保護措置と、②FRBによる金融機関に対する新たな流動性供給措置、これら2つの施策が発表されたことで、市場の混乱は徐々に沈静化に向かっていくものと思われます。

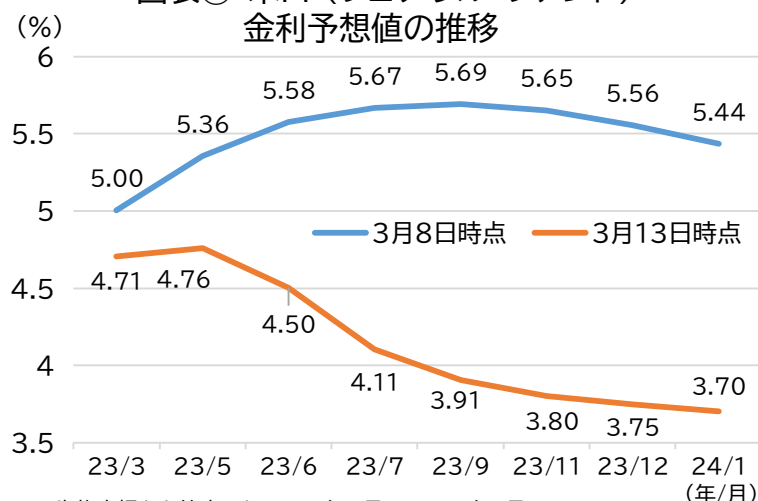
■日本株は当面神経質な展開が予想される

米国発の金融システム不安を受け、日本株も調整を強いられました。14日までの3日間で日経平均株価は約1,400円下落しました(図表③)。今後は上記動向に加え、15日発表の米小売売上高や21、22日開催のFOMC(米連邦公開市場委員会)の結果を控え、引続き日本株市場は神経質な展開が予想されます。

図表①: 米雇用関連指標の推移



図表②: 米FF(フェデラル・ファンド)金利予想値の推移



※ 先物市場から算出した2023年3月~2024年1月FOMC(計8回)終了時点における金利予想
※ 3月8日はSVBの経営不安が高まった日の前営業日。3月13日は直近
(出所) Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成

図表③: 日経平均株価の推移
(2023年1月4日~2023年3月14日)

